

(試訳)

『王侯の没落』第三卷 運命の女神と満足貧乏の争いの場面

ジョン・リドゲイト 作
轟 義昭 訳

はしがき

- (1) 私は日本中世英語英文学会第6回西支部例会（1990年4月28日）における恩師黒瀬保先生の特別講演を傾聴して運命の女神の細密画（彩飾画）探究に着手しました。目下5年余の月日が経過していますが、この間、ロンドン大学内にあるウォーバーグ研究所と大英図書館における調査・探究に基づいて，“A List of Miniatures of Goddess Fortune in Mediaeval Manuscripts”（鹿児島県立短期大学『紀要』第41号、1990年、71-114）という些細な資料を作成し、35mmスライドもしくは白黒写真の形態で各国の図書館並びに美術館から細密画の複製を132点ほど入手しました。『哲学の慰め』写本群、『薔薇物語』写本群など、種々の写本群に出る運命の細密画のなかで、私はボッカッチョの『名士列伝』*De Casibus Virorum Illustrium* 写本群に関心を寄せ、この程 “Miniatures of Goddess Fortune Found in the French and English Versions of Boccaccio's *De Casibus Virorum Illustrium* Manuscripts” を『人文』第19号（鹿児島県立短期大学人文学会論集：1995年8月31日発行）に投稿しました。これは80枚の細密画に関する情報発信源の役割を果たす一方で、その細密画の解説を施したものです。特に、運命の女神と貧乏神の争いの場面、ボッカッチョと彼の面前に出現した運命の女神の対談の場面は興味深く、ボッカッチョ（原作者）、ブルミエフェ（仏訳者）、リドゲイト（重訳・翻案者）のテクストの記述と視覚言語としての細密画との比較考察を試みて写本における画家たちの役割を探ろうと思い立ちました。今回はその前段階としてこのような訳出を試みた次第です。勿論、その作業の一環として「『王侯の没落』第六卷 運命の女神とボッカッチョの対談の場面」の訳出も近いうちに発表する予定です。
- (2) 訳出に当たっては、Henry Bergen ed., *Lydgate's Fall of Princes* (1924; rpt. 1967, The Early English Text Society, Extra Series No.122) のテクストを底本としました。『王侯の没落』は第一巻から第九巻までの 36,365 行で構成された作品ですが、訳出の箇所は第三巻の162行目から707行目に相当します。
- (3) 訳出に当たっては、できる限り「運命の寓意」を生かそうとしました。例えば、343行目 “lure” は、フランス学士院図書館所蔵の原本から複製された Jean Cousin, *The Book of Fortune* (Paris et London, Libraire de L'art, 1883), plate 105 を思い浮かべれば、「釣りの寓意」が連想できるので、“Than is Glad Pouert fre fro thi lure assurid” を「もう擬餌鉤などないことは百も承知です」と訳しました。524行目 “recleymed” は、編者Bergenの語彙集(glossary)において “in falconry, to call back to the lure” と説明されているので, “Pouert recleymed onto Pridis lure” を鷹狩りのイメージで「高慢という罠に呼び戻された満足貧乏は」と訳しました。このような寓意重視の訳出は他にも多々見られます。
- (4) 最後に、訳出において苦心した甲斐が無く、リドゲイトの韻文の持ち味を十二分に引き出すことができなかったばかりか、詩全体が醸し出す雰囲気さえも損なっているかもしれません。そのため私の訳出が読者の皆さんに満たない点も多々見られるかと思います。忌憚なくご意見・ご批判をお願いする次第です。

『王侯の没落』第三卷

運命の女神と満足貧乏の争いの場面

[How Andalus doctor of Astronomye concludith/
how princys sholdenot atwite constellacions nor
fortune of theire vnhappy fallyng but theire owne
demeritys and vicious lyuyng.]

如何に王侯は己の不運な没落について星位でも運命でもなく、
己自身の罪や自堕落な生活のせいにすべきであるかを天文学者
アンダルス先生は説いています。

At Naples whilom, as he doth specefie,
In his youthe whan he to scoole went,
Ther was a doctour off astronomie,
Famous off cunnyng & riht excellent.
Off hym rehersyng, shortii in sentement,
His ioie was most to studyen and to wake;
And he was callid Andalus the blake.

164
168

ボッカッチョが述べているように、
彼がナポリの学校に通った若い頃、
学識豊かで、一際秀でた有名な
天文学者がいました。
彼について簡潔に述べると、
彼の最大の喜びは、寝るのも惜しんで勉強することでした。
それで彼は暗闇のアンダルスと呼ばれました。

He radde in scoolis the meuyng off the heuene,
The kynde off sterris and constellacions,
The cours also off the planetis seuene,
Ther influencis and ther mociouns,
And heeld also in his opynyouns,
The fall off pryncis, the cause weel out souht,
Cam off themsilff & off Fortune nouht.

172

彼は学校で天体の運行、
星の性質、星位、
7つの遊星の軌道、
その運行とその影響に関する講義を行いました。
そして王侯の没落の原因について究明した時、
運命の女神の作用ではなくて、
己自身から生じるのであると考えました。

Nor the sterris wer nothyng to wite,
Be ther meuyng nor be ther influence,
Nor that men sholde off riht the heuene atwite
For no foward worldli violence:
For this clerk ther concluded in sentence,
How men be vertu longe may contune
From hurt off sterris outhier off Fortune.

176
180

星は運行によってもその影響によっても
非難されるべきものではありません。
この世で生じる不運を
人は天体のせいにすべきでもありません。
というのは、徳のある人は如何に星の悪い作用からも
運命の女神の作用からも久しく免れるができるかを
このアンダルス先生が説いているからです。

Ther owne desert is cheeff occasioune
Off the onhap, who-so taketh heede,
And ther demeritis onwarli put hem doun,
Whan vicious liff doth ther bridil leede.
Cours off Fortune nor off the sterris rede
Hyndrith nothyng geyn ther felicite,
Sithe off fre chois thei ha[ue] ful liberte.

184
188

御存じかと思いますが、
己自身の資質こそが不運の主な誘因なのです。
自堕落な生活に陥ると、
己の罪によって思いがけなく転落します。
人には自由意志が存在するので、
運命の進路も赤い星の運行も
人の至福を妨げられません。

轟：(試訳)『王侯の没落』第三巻 運命の女神と満足貧乏の争いの場面

God punsheth synne in many maner wise; Summe he chastisith for ther owne auail: Men may off resoun in such cas deuise, synne ay requereth vengaunce at his tail. God off Fortune taketh no counsail, Nor from hir meuyng no man is mor fre, As clerkis write, than is Glad Pouerte.	192	神はさまざまな手段で罪を罰します。 ある者を利益追求のかどで罰します。 このような場合、罪悪は必ず天罰を受けるのだと 人々が考えるのも当然のことなのです。 神は運命の女神と相談しませんし、 学者たちが述べているように、 満足貧乏ほど運命の仕業から免れている人はいません。
And onto purpos, this auctour ful notable, To his scoleris ther beyng in presence, Ful demurli gan reherse a fable, With many a colour off sugred eloquence; 200 Theron concludyng the summe off his sentence Touchyng a striff, which he dede expresse, Atwen Glad Pouert & this blynd goddesse.		それでこの秀でた先生は意図的に 修辞法の甘ったるい言葉のあやを用いて、 生徒の面前で ある寓話を厳かに語りました。 満足貧乏とこの盲目な女神の争いに関して 彼が語った話の主旨をまとめると 次のようにになります。
[A disputacion between fortune & glad pouert.]		【運命の女神と満足貧乏の争い】
QVOD Andalus: "Whilom off fortune In a streiht place ther sat Glad Pouerte, Which resemblid off look & figure A rekles woman, most ougli on to see, At a naruh meetyng off hih-weies thre, Al totorn, to-raggid and to-rent, A thousand pachcis vpon hir garnement.	204 208	アンダルス先生の講話によると、 姿形が最も醜く、 向こう見ずな女性に譬えられる満足貧乏が、 かつて三つの公道が交わる 狭い地点に座っていました。 彼女の衣装は引き裂かれてぼろぼろで、 たくさんの継ぎ接ぎが見られました。
She was hidous bothe off cheer and face, And in semyng void off sorwe and dreed. And bi that way as Fortune dede pace, And off Glad Pouert sodenli took heed, She gan to smyle & lauhhe at hir in deed, Bi a maner scornyng in certeyn, Off hir array she hadde so gret disdeyn.	212 216	彼女の顔つきも顔色も恐ろしいけれど、 見たところ、悲しんでいるようでもなく、 身を案じているようでもありません。 その道を運命の女神が闊歩していると、 突然満足貧乏を見つけ、 ある種の軽蔑の気持ちを込めて嘲笑い、 彼女の衣装を見下しました。
Whos froward lauhtre, whan Pouert dede espie How she off hir hadde indignacioun, She roos hire up off hih malencolie, Pleynil to shewe hire entenciouin, Withoute good day or salutacioun, Doyng to Fortune no maner reuerence, Vnder these woordis declaryng hir sentence:	220 224	運命の女神の悪意に満ちた笑い声、 如何に彼女が軽蔑的な態度を取っているかに 満足貧乏が気付くと、 激怒して立ち上がり、 運命の女神に挨拶を交わすことなく、 彼女に敬意を払うことなく、 次のように述べました。

'O thou Fortune, most fool off foolis all,
What cause hastow for to lauhhe at me,
Or what disdeyn is in thyn herte fall?
Spare neueradeel, tell on, lat me see,
For I ful litil haue a-do with the;
Off old nor newe I ha[ue] noon aqueyntaunce
Nouther with the nor with thi gouernaunce.'

And whan Fortune beholde the maneer
Off Glad Pouert in hir totorn[e] weede,
And kneuh also be contenaunce & cheer,
How she off hire took but litil heede,
Lik as she hadde to hir no maner neede, —
The which[e] thynges conceyued and Iseyne,
To Pouerte she ansuerde thus ageyn:

'Mi scornful lauhltre pleynli was for the,
Whan I the sauh so megre, pale and leene,
Nakid and cold, in gret aduersite,
Scabbid, scuruy, scallid and oncleene
On bak and body, as it is weel seene.
Many a beeste walke in ther pasture,
Which day be day off newe thou doost recure.

Hauyng nothyng to wrappyn in thyn hed
Sauff a brod hat, rent out off nattis olde,
Ful offten hungri for defaute off bred,
Slepyng on straw[e] in the frostis colde.
And wher thou comest, as men may weel beholde,
For feir off the, childre them withdrawe,
And many a dogge hath on thi staff ignawe. 252

To alle estatis thou art most odious,
Men with the will ha[ue] no daliaunce,
Thi felaship is so contrarious,
Wher thou abidest ther may be no plesaunce.
Folk hate so dedli thi foward aqueyntaunce,
That fynali, I dar conclude off the,
Wher-euer thou comest this felaship men fle!'

Whan Glad Pouert gan pleynli vndirstonde

「おお！愚か者のなかで一番愚かな運命の女神さん,
何故貴女は私のことを笑うのですか。
貴女の心にはどんな軽蔑が潜んでいるのですか,
包み隠さずに語りなさい。
私は貴女とのごたごたなど全くありませんでした。
今も昔も私は貴女とは面識もないし,
貴女の支配と何の関係もありません。」

228 運命の女神は引き裂かれた衣装を纏う
満足貧乏の様子を見て,
また相手に要件などなかったかのように,
彼女が上の空でいることに
顔色や顔つきから気付くと, ——
そのことが想像され見受けられると,
満足貧乏に次のように言い返しました。

240 「軽蔑した笑いを確かに貴女に浴びせました。
逆境のなかでそのように瘦せて青白く,
むき出して寒そうで,
からだ全体に瘡蓋があり,
垢まみれて不潔な貴女を見たからです。
それに多くの獣がぶらついている平原に
日々貴女は出入りしてますもの。

248 くすんだ藁で編まれた帽子のほかは
被り物は何も持たず,
食べ物が無くて度々腹を空かせ,
霜降る寒い日には藁に包まって寝ているからです。
また貴女がやって来たところでは,
恐ろしさのあまりに子供たちも逃げ,
犬だって貴女の杖に噛み付いていました。

256 身分の高い人すべてに貴女は非常に不快であり,
世間の人々も貴女とは口を利こうとはしません。
貴女の存在は非常に嫌悪感を引き起こさせ,
貴女が留まるところには決して楽しさなどありません。
人々は強情な貴女と知合いになることをとても嫌がり,
貴女がやって来るところが何処であれ,
最後には貴女から逃げてしまうのですよ。」

260 運命の女神によって述べられた非難,

轟：(試訳)『王侯の没落』第三巻 運命の女神と満足貧乏の争いの場面

These rebukes rehersed off Fortune,
The rud[e] resouns that she took on honde,
Which frowardli to hire she dede entune,
As Pouert were a refus in comune,
Bi the repreuis that Fortune on hir laide;
For which Pouert replied ageyn & saide:

264

'Fortune,' quod she, 'touchyng this debat,
Which off malice thou doost ageyn me take,
Be weel certeyn, touchyng my poore estat,
I off fre will thi fauour ha[ue] forsake.
And thouh folk seyn thou maist men riche make,
Yit I ha[ue] leuere be poore with gladnesse,
Than with trouble possede gret richesse.

268

272

For thouh thou seeme benygne & debonaire
Bi a maner countirfet apparence,
Fat & weel fed, with rounde chekis faire,
With many colours off trouthe as in pretence,
As ther off feith wer werrai existence, —
But vnder all thi floures off fresshnesse
The serpent glidith, off chaung & doubilnesse.

276

280

And thouh thi clothyng be of purpil hewe,
With gret awaityng off many chaumbereris,
Off gold & perle ech dai chaunges newe,
Clothes off gold & sondry fressh atiris,
And in thyn houshold ful many officeris, —
Yit I dar weel putte in iupartie,
With the to plete and holde chaumpartie.'

284

Thus Glad Pouert gan wexen importune,
Off cheer contraire, off look & off language,
Ageyn this ladi which callid is Fortune,
That off disdeyn she fill into a rage:
'Behold,' quod she, 'off Pouert the corage,
In wrechidnesse standyng disconsolat,
How ageyn me she is now obstynat!

288

292

She cannat see, how she stant outrained,
Fer from the fauour off my felicite,

296

彼女が並べ立てた失礼な言葉,
彼女が浴びせた非難によると,
己が乞食であるかのように
悪意を込めて述べた弁明を
満足貧乏が聞くと,
それに対して反駁して言った。

「運命の女神さん、 悪意を持って私に仕掛けた
この挑発に関しては、 また私の貧しい身分に関しては、
了承しておいて下さい,
私が自由意志によって貴女の好意を蔑ろにしたためです。
貴女が人々を豊かにすると世間では言われていますが、
私は苦労して莫大な財産を築くよりも
むしろ貧乏に甘んじている方がましです。

というのは、 貴女はある種の繕った容貌によって
優しく愛想がいいように思え,
太っていて、 美しいふくよかな頬をし,
誠実を装う種々の仮面を付けて
まさに本当の姿であるかのようにしていますが、
貴女の鮮やかな花に隠れて
変動と二面性の蛇がするすると動いているからです。

貴女は紫衣を纏い,
大勢の侍女に付き添われ,
金や真珠細工の飾り意匠を凝らした
黄金色や色鮮やかな衣装を毎日毎日取り替え,
貴女の館には大勢の召使がいますが, ——
敢えて身を危険にさらして
私は貴女と一戦交えましょう。」

このように満足貧乏は煩く,
運命と呼ばれるこの貴婦人に対して
顔つき、 表情、 言葉が敵意に満ちていたので、
運命の女神はかっとなり、 高慢な態度で言い返しました。
'満足貧乏さん、 己の心の内を御覧なさい,
惨めでやるせない状態なのに
貴女は私に対して何と意地っ張りなんでしょう！

私の好意が及ばずに
如何に打ちのめされているか貴女は気付かず,

- | | | |
|---|-----|---|
| Yit off pride she is nat disamaied,
Nor list nat bowwe for tobeie me,
Thouh she be cast in mendicite,
Ferhest a-bak, I do you weel assure,
In myscheeff set off any creature. | 300 | 乞食同然であるのに
片意地を張って瘦せ我慢し,
私に媚びようとしないとは!
貴女が世の中で一番どん底にいることを
はっきりと分からせてやります。 |
| But treuli, Pouert, for al thi truaundise,
Maugre thi pride and thi gret outrage,
I shal the pun[y]she in ful cruel wise,
To make the loute vnder my seruage.
Which resemblest a dedli pale ymage,
That were off newe rise out off his graue,
And yit off pride darst ageyn me rauue.' | 304 | しかし満足貧乏さん、悪ふざけのかどで、
見栄を切り、不埒に振る舞うかどで、
最も残酷な方法で貴女を懲らしめ、
屈服させて私の奴隸にしましょう。
今し方墓から出てきたばかりなのに
自惚れて大胆にも私に当たり散らす
蒼白な死人に貴女は似てますこと。」 |
| But whan Fortune hadde these woordis said,
Glad Pouert gan falle in gret gladnesse,
And ageyn Fortune with a sodeyn braid,
She gan hir conceit out "shewe & expresse:
'Fortune,' quod she, 'thouh thou be a goddesse
Callid off foolis, yit lerne this off me,
From thi seruage I stonde at liberte.' | 312 | 運命の女神の言い分を聞くと、
満足貧乏は大いに喜び、
突然彼女に所見を述べました。
「運命の女神さん、世間の愚か者によって
貴女は女神さまと呼ばれていますが、
いずれにしても、
私は貴女への隸属から免れているのですよ。」 |
| But yiff I shal algatis haue a-doo
With the in armis, most cruel & vengable,
Touchyng the quarel that is atwen vs too,
Ther is o thyng to me riht confortable,
That thi corage is flekeryng & onstable;
And wher an herte is in hymself deuyded,
Victorie in armys for hym is nat prouyded. | 316 | しかし最も残酷で極悪非道な貴女と
私が組み合って争うことになるとしましょう。
我々二人の争いについて言えば、
私にとって慰めとなることがあります。
貴女の心が不安定でよるべきないです。
二心がある場合には、
戦いで勝利は与えられません。 |
| Me list[e] nouther flatre the nor fage,
Nor the tenoynte be adulacioun,
Thouh flat[e]rie & feyned fals language
Approprid be to thi condicioun;
And in despit off thi presumpcioun,
I ha[ue] forsake off my fre volunte
All the tresours off worldli vanite. | 324 | 貴女にへつらったりおもねったり、
甘言を用いて媚びる気はありません。
お世辞やうわべだけの言葉は
貴女の性格にこそ相応しいものです。
私は貴女の厚かましさを物ともせずに、
己の自由意志によって
はかない世俗の財産をすべて擲ちました。 |
| Whilom I was, as thou hast deuised,
Seruant to the, and onto thi tresours;
But fro thi daunger now that I am fraunchised, | 328 | 御存じの通り、かつて私は貴女の僕で、
貴女の富に首ったけでした。
しかし貴女の支配から解放され、 |

轟：(試訳)『王侯の没落』第三巻 運命の女神と満足貧乏の争いの場面

Sekyng off the nouther helpe nor socours, Manace kynges & myhti emperours: For Glad Pouert, late nouther soone, With thi richessis hath nothyng to doone.	336	貴女の支援も援助も求めないので、 王にも大皇帝にも脅威を与えます。 というのは、 ^{ひとりきみ} ^{わたくし} 独身の私満足貧乏は 貴女の豊饒とは一切関係などないからです。
For thouh thou haue embracid in thi cheyne Worldli pryncis & goodes transitorie, And riche marchantis vndir thi demeyne, Yeuest to knyhthod conquest and victorie,	340	貴女は王侯を鎖で捕らえ、 はかない物件を管理し、 金持ちの商人を己の支配下に置き、 騎士団には征服と戦勝の栄冠、 徐々に薄らぐ賞賛と虚飾の栄誉を授けますが、―― 彼らがめいめい貴女の好意を得た時、 もう貴女の擬餌鉤などないことは百も承知です。
All thi seruantis standen vnder dreede, Quakyng for feer[e] off thi doubilnesse; For nouther wisdam, force nor manheede, Fredam, bounte, loue nor ientillesse	344	貴女の虜はすべて不安に陥り、 貴女の二面性に ^{びび} 震えています。 というのは、知恵であれ、力であれ、勇気であれ、 自由であれ、寛大さであれ、愛であれ、優しさであれ、 貴女の好意には何の防衛手段にもならないからです。
Mai in thi fauour ha[ue] no sikirnesse; Thei be so possid with wyndis in thi barge, Wher-as Glad Pouert goth freli at his large.	348	世間の人々は貴女の小舟に乗って揺れているのに、 私は当ても無くのんびりと進んでいます。
Thi manacyng doth me no duresse, Which worldli pryncis dredyn euerichon.	352	王侯が皆恐れています 貴女の威嚇的な態度は何の損害も私には与えません。 人々が莫大な財産喪失に震えるのも当然のことです。 しかし私満足貧乏は富に何の未練もありません。 世の物件は潮の干満のように移ろいゆくものです。
But I, Glad Pouert, theroff desire non, As flowe & ebbe al worldli thyng mut gon; For afffir flodis off Fortunys tyde,	356	運命の潮が満ちようが引こうが、私には同じことです。 貴女がお気に入りを裕福にしようと貧しくしようと、 私は貴女の無常を恐れたりしません。 君主の地位も莫大な富も 貴女に要求するつもりなどさらさらないからです。
The ebbe floweth, & will no man abide.		貴女からの贈り物に関わる人は、 月以上の激しい変動に晒されていますもの。
Flowe and ebbe be to me bothe aliche; I dreede nothyng thi mutabilite,		古代ローマにおいて月桂樹の冠を戴いた 皇帝たちは貧乏から身を立て、 自由と寛大さが彼らを戦勝者にし、 彼らの名をさん然と輝かせました。
Mak whom thou list[e] outher poore or riche;	360	
For I nothyng will requere off the,		
Nouther lordshepe nor gret prosperite:		
For with thi gifftes who that hath to doone,		
Off chaunges braideth offter than the moone.	364	
Out off pouert cam first these emperours That were in Rome crownyd with laurer;		
Fredam & largesse made hem first vitours,		
Causyng ther fame to shyne briht and cleer,	368	

Till couetise brought hem in daunger,
Whan thei off foli in ther most excellence,
To thi doubilnesse dede reuerence.

遂に貪欲が彼らを虜にし,
愚かにも隆盛を極める時に,
彼らは貴女の二面性に敬意を払いました。

For whan fredam a prynce doth forsake, 372
And couetise put awei largesse,
And streihtnesse is into houshold take,
And negardship exilith ientillesse,
Than is withdrawe from ther hih noblesse
The peoplis herte; and, pleynli to deuise,
Off ther seruauntis farweel al good seruise.

自由が王侯を見捨て,
貪欲が寛大さを追い出し,
吝嗇が王室に入り込み,
けちが優しさを追放すると,
民衆の心は高貴な人から離れ,
有体に言えば,
召使たちも暇を取ります。

Al such sodeyn chaungis in comune
In this world vsid now fro day to day, 380
Echon thei come be fraude off fals Fortune;
Experience hath put it at assay,
Loue, trouthe & feith be gon [so] ferr away.
And yiff that trust with pryncis wil nat tarie,
Litil merueile thouh the peopple varie.

このような突然の変化は
この世では常々生じたもので,
不実な運命の女神の欺瞞によるものでした。
愛, 真実, 誠実が去ってしまい,
経験がそのことを教えてくれました。
もし信頼が王侯に留まらなければ,
民衆が掌を返すのも不思議ではありません。

For thoruh thi chaungis off fraudulent fairnesse,
Ther is now vsid in eueri regiou
Glad cheer out shewed with couert doubilnesse, 388
Vnder the courtyn off symulacioun.
So secre now is adulacioun,
That in this world may be no sur[e]te,
But yiff it reste in Glad Pouerte.

貴女が美しさを繕う仮面を被ると,
偽装の仮面の内側で,
二心の色が満足顔にも覗くことが
今でもあらゆる地域で見られるものです。
追従は今や密かなもので,
私満足貧乏に確かさがなければ,
この世に確かなものなど何もありません。

Yit off thi pereilous froward variaunce
I sette no stor, treuli as for me;
For al thi frenship concludeth with myschaunce,
With sodeyn myscheeff off mutabilite, 396
Which yeueth me herte to haue a-do with the:
For suffisaunce in my poore estaat
Shal to thi chaunges seyn sodenli chekmaat.'

本当に私としては,
貴女の危険で邪な変動を重んじたりしません。
貴女の好意は不幸で終わるし,
無常という突然の不幸で終わるからです。
このことが貴女とのもめ事に勇気を与えてくれます。
というのは, 貧しい身分に甘んじていれば,
貴女の変動に突然王手詰みと言えるからですよ。」

Fortune almost with anger disespeired, 400
Off these woordis took ful gret greuaunce.
'Pouert,' quod she, 'which maist nat been apeired!
But I now shewe ageyn the my puissaunce,
Men wolde litil accounte my substaunce,

運命の女神は腹立ち紛れに自暴自棄になり,
相手の言葉に大いに憤慨して次のように述べました。
「満足貧乏さん, 損傷を被ることはないですって!
ここで私の力を見せつけなければ,
世間の人々は私の実体を軽んじることでしょう。」

轟：(試訳)『王侯の没落』第三巻 運命の女神と満足貧乏の争いの場面

O myhti Pouert! O stronge Hercules!		おお、力強い貧乏さん、たくましいヘラクレスさん、
Which ageyn[s] me puttest thi-silff in pres!		私は敵対し立ち向かうとは！
Supposest thou it sholde the auaille,		気迫と度胸で
Outher be force or be hardynesse	408	私と一戦交えて、
To haue a-do with me in bataile,		貴女に勝ち目があるとでも思っているの？
Which am off conquest & off hih prowesse		私は戦争において征服と武勇の
In armys callid ladi and pryncesse?		貴婦人とか王女と呼ばれているのですよ。
For ther is non so myhti conquerour,	412	私の好意を得ずに成功するような
That may preuaile withoutte my fauour.'		強大な征服者など誰もいません。」
Off these woordis Pouert nothyng afferd,		このような言葉に満足貧乏は怯むことなく、
Ansuerde ageyn, thus pleyndl in sentence.		次のように反問しました。
'Thouh heer I ne haue spere, sheeld nor suerd,	416	「私はここに槍も盾も剣も、
Nor chosen armour to stonden at diffence,		護身用の見事な甲冑も、
Pollex nor dagger to make resistance,		反撃用の短剣も戦斧も持ち合わせておらず丸腰ですが、
But bare and naked, anon it shal be seyn,		この平原で私と組み討ちするかどうか、
Wher thou with me darst wrastlen on this pleyn.	420	貴女の決意のほどを直に示しなさい。
Which shal be doon vnder condiciooun		この勝負においてはどちらも退くことなく、
That non off vs shal hymself withdrawe,		その場にずっと留まり、
But stille abide off entencioun,		勝者が好きな撃を
Till he that venquyssh ordeyned hath a lawe,	424	敗者に定めるという
Such as hym likith, ageyn[e]s his felawes.		条件のもとで行われるべきです。
The which[e] lawe shal nat be delaied		しかも一刻の猶予もなくその撃は
To be accomplissid on hym that is outraied.'		敗者に執行されるべきです。」
Off whos woordes Fortune ageyn gan smyle,	428	自惚れて攻め立てた
That Pouert proffred so proudli to assaile.		満足貧乏の言葉に運命の女神はやりとし、
And vpon this she stynte a litil while,		しばらくためらった後、
And to Pouert she putte this opposaile:		満足貧乏に次のような質問を浴びせました。
'Who shal,' quod she, 'be iuge off this bataile,	432	「この勝負の審判は誰ですか。」
Or yeue a doom iustli atwen vs tweyne		我々二人の争いについて
Off this quarell which we shal darreyne?		公正に勝敗の判定を下すのは誰ですか。」
I axe also a-nother questioun		貴女の狂乱的でぶしつけな申し出について
Touchyng thi profre off furious outrage:	436	もう一点質問します。
Wher-as thou puttest a condiciooun		貴女はかなり自惚れて
And a lawe with ful proud language, —		争いの条件や撃に触れましたが、――
Wher shaltow fynden pleggis or hostage		貴女が提案した約束を守って、
To keepe the promys which thou doost ordeyne,	440	その報いと罰を甘受する

Theroff tabide the guerdoun or the pleyne?

I meene as thus: yiff ther be set a lawe
Atween vs too or a condicioun
Be sur[e]te, which may nat be withdrawe,
As vnder bond or obligacioun;
But, ther is nouther lawe nor resoun
May bynde a beggere, yiff it be weel souht,
Whan it is preued that he hath riht nouht.

Thi sect off pouert hath a proteccioun
From all statutis to gon at liberte,
And from al lawe a pleyn exempcioun:
Than folweth it, yiff thou bounde the
To any lawe that may contreuid be,
It wer fraude, pleynli to endite,
Which hast riht nouht thi parti to aquite.

Thou art so feeble, yiff it cam therto,
That thou were brought onto vttraunce,
For noun power, whan al that wer do,
Thou sholdist faile to make thi fynaunce,
Bothe destitut off good and off substaunce;
And sithe no lawe thi persone may coarte,
It wer foli with suchon to iuparte.

Yiff I wolde compulse the to wrak,
Taxe off the the tresour off kyng Darie,
On that parti thou stondest ferr abak,
Mi paiement so longe sholde tarie,
Indigence wolde make the to varie.
And yiff I wolde thi persone eek compare
To Alisandre, — thi sides been ful bare!

And fynali thou stondest in such caas
Off miserie, wrechidnesse and neede,
That thou myhtest off resoun seyn allas,
Bothe forsake off frenshipe & kenreede,
And ther is non dar plegge the for dreede:
Yit lik a fool supprisid with veynglorie,
Hapest off me to wynne the victorie.'

担保物件を貴女は何処に見出そうというのですか？

444 どのようなことかと言えば,
契約書を交わしたかのように,
解消できない正式な抵当付き条件を
我々二人の間で取り決めても,
相手が一文なしであることが露呈すれば,
乞食に縄を打つことのできる
道理と法律なんて有りませんよ。

452 貴女の貧乏一味は
すべての法規を搔い潜る特権を持ち,
あらゆる法律から完全に免除されています。
それゆえ、この世のあらゆる法律に照らして
貴女に縄を打とうとも,
一文無しの相手を釈放することになれば,
はっきり言って、割に合いません。

456 460 464 468 472 476 貴女は非常に弱々しく非力なので,
勝敗の行方が決した時,
瀕死の重傷を負うことでしょうし,
貴女には富も財産もないので,
保釈金を工面することも出来ない筈です。
尤も如何なる法律も貴女の身を拘束できないので,
そのような人と係り合うのは愚かなことでしょう。

もし貴女を窮地に陥れて,
ダリウス王の財宝を要求しても,
貴女はその方とは縁もゆかりも無いので,
私の支払いはかなり滞り,
窮乏に喘いで心変わりすることでしょう。
さらに貴女をアレクサンダー大王と比較すると, ——
貴女の両わき腹は何と露出していることか！

詰まるところ,
窮乏、悲惨、貧困の状況にいるので,
友や親類から見限られ,
身を捨てて貴女の保釈保証人になる人など誰もいないことに,
貴女がああ！と漏らすのも当然のことです。
だが、虚栄心に満ちた愚か者のように,
私に勝とうと思うなんて！」

轟：(試訳)『王侯の没落』第三巻 運命の女神と満足貧乏の争いの場面

Quod Glad Pouert, 'I doute neueradeel
That the victorie shal passen on my side.
Plegge & hostages, lat hem go farweel!
I axe no mor off al thi grete pride,
But to the eende that thou wilt abide.
Plegge thi feith, al-be that sum men seith,
To truste in Fortune ther is ful litil feith.

480

And for my part, in this hih emprise,
Sithe I ha[ue] pleggis nouther on nor tweyne,
Mor sur hostage can I nat deuse,
But yiff so be the victorie thou atteyne,
Than yelde my bodi bounden in a cheyne,
Perpetueli, lik the condicioun,
With the tabide fettrid in prisoun.'

484

Than Fortune louh mor than she dede afforn,
Whan she sauh Pouert so presumptuous;
In hir arrai al ruggid and totorn,
And hadde nouther rente, lond nor hous.
'It is,' quod she, 'a thyng contrarious
Onto nature, who that can aduerte,
To a beggere to haue a sturdi herte.

492

And yiff that I the venquisshid in bataile,
It were to me no worshepe nor auauantage, —
What sholde thi bodi onto me auaille,
The tenprisowne streihtli in a cage?
It sholde been a charge and a costage,
Thyn empti wombe ech day to fulfill,
Yiff thou myhtest haue vitaile at thi will!

500

And yiff I wolde my-silff to magnifie,
Tokne off tryumphe afftir my char the leede,
Men wolde deeme it a maner moquerie,
And seyn in scorn: 'tak off that fool good heede,
How he a beggere hath ouercome in deede,
Fauft with hym for to encrece his name,
Which conquest turneth to his disclandre & shame!'

504

Yit whan I haue brouht the to vttraunce,

満足貧乏は次のように言いました。

「私は己の勝利を少しも疑っていません。」

抵当とか担保とかのことはもうたくさんです！」

勝敗が決するまでここに留まりなさい。

これ以上のことを思い上がった貴女には求めません。

運命の女神を信頼しても殆ど當てにならないと

世間の人々は言いますが、固く約束して下さい。

私としては、この重大な局面において
あれこれ担保を一切持ち合わせていないので、
貴女が勝負に勝った場合には、
取り決めに従って、
我が身を鎖で縛り、
永久に獄舎に繫がれて留まること以外に
確かな担保について述べることはできません。」

ぼろぼろに引き裂かれた衣装を纏い、
収入も無く、土地も家も持たないので、
厚かましく振る舞う満足貧乏を運命の女神は見て、
先程以上に声を立て笑い、次のように言いました。
「乞食が大胆な野心を抱くなんて、
誰が考えてみても、
自然に反する行為だと思います。」

それで私がこの勝負に勝ったとしても、
私にとって何の誉れにも利益にもならないでしょう。——
貴女をきつく縛り獄舎に繫いだところで、
私に何の得が有り得ましょうか？
もし貴女が思う存分食べ物にありつけば、
貴女の空腹を毎日満たすだけで、
私の出費が嵩むことでしょうよ。」

勝ち誇って勝利のあかしに
貴女を車の後ろに繫いで引き回すならば、
世間の人々はその光景を一種の笑い種とみなし、
軽蔑して囁くことでしょう。「あの愚か者を御覧なさい、
名を揚げようと乞食と争い、
実際に相手を負かしたんですって。
そのような勝利は恥の上塗りにしかならないのにねえ！」

だが、貴女に瀕死の重傷を負わせ、

Mi power shewed and my grete myht, And thyn outrage oppressid bi vengaunce, —— Afftir al this, as it is skile and riht, It shal be kouth in eueri manys siht, Out declarid the gret[e] difference Twen thi feblesse & my gret excellence.	516	私の実力と腕力を誇示し、 貴女の不埒な行為を罰すれば、—— その後、当然の成行きとして、 弱い貴女と卓越した私の間にあった 歴然たる相違が立証されたのだと 誰の心にも焼き付くことでしょう。
Than to represse thi surquedie attonys, Cruel Orchus, the teidogge infernall, Shal reende thi skyn assonder fro thi bonys, To shewe my power, which is imperiall, And to declare in especiall, Pouert recleymed onto Pridis lure, With me to plete may no while endure.'	520	それから貴女の傲慢さを思い知らせるために直ちに 地獄の番犬たる残酷なオルクスに 貴女の皮膚を骨の髓まで引き裂かせましょう。 私の威儀ある権限を示すためであり、 高慢という因に呼び戻された満足貧乏は 私との勝負をかなりの間凌げることを 特に証明するためです。」
And sodenli, or Glad Pouert took heed, Fortune proudli first began tassaile; And onwarli hent hire bi the hed, Demyng off pride, that she may nat faile Thoruh hir power to venquysshe this bataile. But it may falle a dwery in his riht Toutraie a geaunt, for al his grete myht.	528	すると突然満足貧乏の透きをついて 高慢な運命の女神は攻撃を開始し、 彼女の頭をつかみました。 自尊心にかけて力勝負では 負けるわけがないと考えてのことです。 しかし正義に燃える小人が時として 巨人の力を物ともせずに彼を負かすこともあります。
God taketh non heed to power nor to strengthe, To hih estaat[e] nor to hih noblesse, To squar[e] lemys, forged on breede or lengthe, But to quarelis groundid on rihtwisnesse; For out off wrong may growe no prowesse. For wher that trouthe holdeth chaumpartie, God will his cause be grace magnefie.	532	神は権力でも、力でも、 高い地位でも、高貴さでも、 体格の良い人でもなく、 正義に基づいた争いに情をお掛けになられます。 というのは、悪から勇敢な行為は生じないからです。 真実が抵抗するところでは、 神は恩恵によって訴えを守ってくれることでしょう。
Wherfor Pouert, strong in hir entent, Liht and delyu[e]re, auoid off al fatnesse, Riht weel brethed, & nothyng corpulent, Smal off dieete surfetis to represse, Ageyn Fortune proudli gan hir dresse, And with an ougli, sterne cruel face, Gan in armys hir proudli to embrace.	540 544	それゆえ、満足貧乏は意志が強く、 肥満を避けて身軽で敏捷であり、 息づかいも正常であり、 粗食に甘んじて過食を抑えています。 運命の女神に対して堂々と身構え、 醜くて厳しい獰猛な顔つきをして 四つに組み合いました。
Pouert was scendre & myhte weel endure; Fortune was round[e], short off wynd and breth.	548	満足貧乏はほっそりしていますが、忍耐力は十分です。 運命の女神は丸々太っていて、息がすぐに切れ、

轟：(試訳)『王侯の没落』第三巻 運命の女神と満足貧乏の争いの場面

And wombres grete oppressid with armure,
For lak off wynd the grete stuff hem sleth;
And many a man bryngeth to his deth:
For ouermekil off any maner thyng
Hath many on brought to his ondoyng.

552

大きな腹が甲冑で圧迫されています。
呼吸困難は甲冑そのものを無力化させ,
多くの兵士をも死に至らしめます。
無用の長物は却って
多くの者を破滅へともたらすものです。

A mene is best, with good[e] gouernaunce;
To mekil is nouht, nor ouer-gret plente:
Gretter richesse is founde in suffisaunce
Than in the flodis off superfluyte.
And who is content in his pouerte
And gruchchith nat, for bittir nor for soote,
What-euer he be, hath Fortune vndir foote,

556
560

制御力のある中庸が最善であり,
豊満が良いわけではありません。
真の富は巨万の富に溢れる生活よりも
適度に満ち足りた生活に見出されます。
貧乏に満足し,
不運にも幸運にも不満を言わない人は,
運命の女神を屈服させます。

Couetise put hym in no dispeir, ——
Wherfor Pouert, off herte glad and liht,
Lefft Fortune ful hih up in the heir,
And hir constreynd off verai force & myht.
For Glad Pouert off custum and off riht,
Whan any trouble ageyn hir doth begynne,
Ay off Fortune the laurer she doth wynne.

564

貪欲は貧しい者を絶望の淵に追い込めません。——
それゆえ、満足貧乏は意気揚々と
運命の女神を空高く持ち上げ,
力づくで彼女を束縛しました。
というのは、当然のこととして、満足貧乏は
如何なる困難が降りかかるとも,
必ず運命の女神から勝利の栄冠を得るからです。

Maugre Fortune, in the hair aloffte
Constreynd she was be Wilful Pouerte,
That to the erthe hir fal was ful onsoffte:
For off Pouert the bony sharp[e] kne,
Scendre and long & leene vpon to see,
Hitte Fortune with so gret a myht
Ageyn the herte, she myht nat stande vpriht:

568
572

この世を支配する運命の女神であるのに,
彼女は空高く意志の強い満足貧乏によって束縛され,
地面に激しく叩き付けられました。
運命の女神はまっすぐな姿勢を取れないほど,
満足貧乏の骨張った膝,
見るにはそそりと長く痩せた膝が
彼女の心臓に強烈な一撃を与えました。

To signefie that Pouert with gladnesse,
Which is content with smal possessioun
And geueth no fors off tresour nor richesse,
Hath ouer Fortune the dominacioun,
And kepit hir euer vnder subieccioun,
Wher worldli folk, with ther riche apparaile,
Lyue euer in dreed Fortune wolde faille.

576
580

豪華な装いをした世俗の人々が
運命の女神にそっぽを向かれるのではないかと
絶えず心配して暮らしているところで,
僅かな財産に満足し,
宝も富も重んじない満足貧乏は
運命の女神を支配し,
常に彼女を従属させ得ることを示すためでした。

The poore man affor the theeff doth syng
Vnder the wodis with fresh notis shrille;
The riche man, ful feerful off robbynge,

584

森のなかでは貧しい人は元気に歌って
盗賊の前を通ります。
金持は盗賊を恐れて震えながら,

Quakyng for dreed[e], rideth foorth ful stille. The poore at large goth wher hym list at wille, Strongli fraunchised from al debat and striff; The riche afferd alwei to lese his liff.	588	静かに通り過ぎます。 貧しい人々は大手を振って好きな場所に行きますし、 争いやもめ事に激しく悩まされません。 金持は絶えず生命の危険を案じています。
Thus Glad Pouert hath the palme Iwonne, — Fortune outrailed, for al hir doubilnesse. Vpon whom Pouert in haste is ronne, And streyned hir with so gret duresse, Till she confessid & pleynli dede expresse With feith & hand, in al hir gret[e] peyne, Tabide what lawe Pouert list ordeyne.	592	このようにして満足貧乏は勝利の栄冠を得ました。—— 運命の女神の二面性を物ともせずに彼女を負かしました。 満足貧乏は運命の女神の上に素早く馬乗りになって、 彼女の喉元をきつく締めつけました。 遂に運命の女神は耐え難い苦痛のなかで 満足貧乏が定めた如何なる掟をも、 誠心誠意、忠実に守ることを認めました。
And in haste afftir this disconfiture, Fortune began to compleyne sore. But Glad Pouert, which all thynge myhte endure, Charged Fortune scornen hire no more. For it was said[e] sithen go ful yore, He that rejoishith to scorne folk in veyn, Whan he wer lothest shal scorned been ageyn.	596 600	この敗北の後すぐに、 運命の女神は愚痴をこぼし始めました。 しかしどんなこといても辛抱強い満足貧乏も、 これ以上嘲るのを止めるように彼女に命じました。 というのは、人々をみだりに嘲って喜ぶ者は、 己が困った状態に陥った時、反対に嘲られるものであると 遠い昔から言われているからです。
'Yit,' quod Pouert, 'thouh thou were despitous, Woordis rehersyng which wer nat faire, Straunge rebukis ful contrarious, And repreuys many thousand paire, Thou shalt me fynde ageynward debonaire: For thouh a tunge be scandrous & vengable, To scandre ageyn is nothyng comendable.	604 608	満足貧乏は次のように言いました。「貴女はぶしつけで、 品の悪い言葉を吐き、 奇妙な毒舌をふるい、 数え切れないほどの小言を並べ立てましたが、 却って私が愛想のいい人だとわかることでしょうよ。 相手の言葉が中傷的であれ悪意のあるものであれ、 遣り返すのは賞賛に値する行為ではないからです。
Thou must considre, touchyng our bataile The ordynance and imposicioun, That which off vs in conquest do preuaile To brynge his felawe to subiecioun, He shal obeie the statut off resoun, And accomplisshe, off verai due dette, What lawe the victour list vpon hym sette.	612 616	我々の勝負に関する例の取り決めと掟を 貴女は斟酌しなければなりません。 どちらが争いに勝って 相手を屈服させようとも、 敗者は法規に従い、 勝者が敗者に定めた如何なる掟をも、 当然の負目として、果たさねばならないというものです。
For which thou shalt the said[e] lawe obeie, With circumstaunces off the condicione Bi me ordeyned, and nothyng ageyn seie, — Make no gruchchyng nor replicacioun.	620	それゆえ、私が提案した条件付き 例の掟に貴女を従わせましょう。 何も問い合わせてはいけません。—— 不平を零しても異議を唱えてもいけません。

轟：（試訳）『王侯の没落』第三巻 運命の女神と満足貧乏の争いの場面

Considered first the fals opynyoun
Off hem that seyn, al worldli auenture
Off good and badde abide vnder thi cure, —

まず世の中の幸運も不運もすべて
貴女の匙加減にかかっていると言う世間の人々の
誤った考えを考慮すると、――

Summe poetis and philisophres also	624
Wolde in this caas make the a goddesse,	
Which be deceyued, I dar seyn, bothe too;	
And ther errorre and foli to redresse,	
I shal withdrawe in verai sekirnesse	628
Onhappi Auenture away fro thi power,	
That she no mor shal stonde in thi daunger.	

詩人や哲学者のなかにも
庶民的見地から貴女を女神とする者もいることでしょう。
おそらくその人たちは思い違いをしています。
そこで彼らの誤った愚かな考えを正すために、
貴女の力から悪運を
実際に奪い取りましょう。
そうなれば悪運はもはや貴女の配下ではありません。

This lawe off newe vpon the I make,
That first thou shalt, al open in sum pleyn, 632
Euel Auenture bynden to a stake,
Or to sum peler wher she mai be seyn,
To shewe exaumple to folkis in certeyn,
That no man shal loosne hire nor discharge,
But such as list with hire to gon at large.

更に貴女には次の捷を追加します。
広々とした平原において、
誰の目にも晒されるように
杭ないし柱に悪運を縛りなさい。
悪運と大手を振りたい者以外には
彼女を解き放つ者など誰もいないことを
世間の人々に示すためです。

Heeroff to make a declaracioun,
Touchyng thi myht off Euel Auenture,
Thou shalt forgon thi dominacioun 640
To hyndre or harme any creature,
But onli foolis, which in thi myht assure.
Thei off ther foli may feele gret damage,
Nat off thi power, but off ther owne outrage.' 644

貴女に貢わる悪運の力について公告するために、
その力に頼る愚か者以外、
如何なる人間にも害を及ぼすような
支配権を放棄しなさい。
そうすれば愚か者は貴女の力からではなく、
己自身の不法行為、己の愚かさから
大損害を被るのだと思い知るでしょう。」

For thilke foolis, which that list onbynde
This wrechche callid Onhappi Auenture,
Off witt & resoun thei make hemseluen blynde,
Lich as the world stood in Fortunys cure, 648
As thouh she myhte assure hem & onsure,
And hem dispose to welthe or wrechchidnesse, —
In ther errorre hir callyng a goddesse!

このような愚か者たちが
悪運と呼ばれるこの奴を自由の身にさせたがるのは、
知性と理性を欠いているためです。
この世が運命の管理下にあって、
恰も彼女が人々を安定させたり不安定にさせたり、
幸福もしくは不幸へと人々を振り分けるかのように――
誤った考え方から彼女を女神さまと呼ぶなんて！

Such wilful wrechhis that hem silff betake	652
To putte ther fredam in hir subiecioun,	
Off God aboue the power thei forsake,	
And hem submitte, ageyn[e]s al resoun,	
Vnder Fortunis transmutacioun.	656

そのような欲に満ちた輩は
己の自由を運命の支配に委ねようとして、
天上の神の力を蔑ろにし、
道理に反して
運命の変動に身を任せ、

Ther liberte ful falsli for to thrall, Namli whan thei a goddesse list hir call.		己の自由を全く不当に拘束してしまいます。 そのような時、彼らは彼女を女神さまと呼びたがるのです。
With a dirk myst off variacioun Fortune hath cloudid ther cleer natural liht, And ouershadowed ther discrecioun, That thei be blent in ther inward siht For to considre and to beholde ariht, How God aboue put vnder mannys cure Fre chois off good, his resoun to assure.	660 664	変動の濃い霧で 運命の女神は彼ら本来の明るい光を遮り、 彼らの思慮分別を鈍らせました。 その結果、如何に天上の神が人間に自由意志を託され、 彼らの理性を確実にしようとされたかを、 正しく見て判断する 彼らの心の目は曇っていました。
The Lord enlumyned off his bounteuous largesse With mynde and witt his memoriall, Toward al vertu his steppis for to dresse, Endued his resoun for to be naturall, Off frowardnesse till he wex bestiall, To blynde hymself contrariousli in deede To serue Fortune, atwixen hope and dreede.	668 672	天帝は慈悲深い恩寵によって 人の心を理知で照らし、 善へと人の歩みを教化し、 無垢になるように人の理性をお導きになりました。 遂に邪な野心から人は理性を失い、 己を束縛して天帝から離れ、 期待と不安に揺れて運命の女神に仕えました。
Thus bestiall folk made hire a goddesse, Falsli wenying she myhte hem most auaille With hir plentes off habundant richesse; And summe demen in ther supposaile, With onwar chaung she dar the grete assaile, Whos trust[e] alwei medlid is with trouble, And hir plesaunce includith menyng double.	676	こうして理性を失った人々は彼女を女神に担ぎ上げ、 豊富な財力を用いて 彼女が人々を助けるのだと過信しました。 676 また予期せぬ変化で彼女は偉人をも襲撃すると 想像力を働かせて考える人もいました。 彼女に頼るといつも面倒に巻き込まれてしまいます。 彼女の楽しみには二心の目的が含まれているせいです。
And summe afferme that she mai auaunce Conquestis grete and disconfitures, And how [it] lith also in hir puissaunce To forthre & hyndre all maner creatures, And calle hir pryncesse off fatal auentures, The riche tenhaunce be roial apparaile, And be disdeyn to hyndre the poraile.	680 684	彼女は大勝利に酔わせることも 大敗北を喫させることもでき、 あらゆる隸属者を助けたり痛めたりする力が 如何に彼女に具わっていることかと明言する人もいますし、 豪華な装いで金持を高め、 高慢な態度で貧しい人をあしらうために、 彼女を宿命的変化の王女と呼ぶ人もいます。
Whan she maketh most fulsumli hir profres, Hir blaundisshyng is farsid with falsheed; Whan hir richessis be stuffid up in coffres, Thei been ay shet vnder a lok off dred. Wherfore, ye riche, off o thyng takith heed, As your gadryng cam in with plesaunce,	688 692	彼女が有り余るほどの贈り物を施す時、 虚言には甘言の隠し味が加えられています。 彼女の財宝が金櫃に納められている時、 恐怖の錠でいつも閉ざされています。 それゆえ、金持の方々よ、ご注意下さい、 順風に乗れば欲深くお金を獲得できるように、

轟：(試訳)『王侯の没落』第三巻 運命の女神と満足貧乏の争いの場面

Riht so your losse departeth with myschaunce.

逆風にあれば損を被ることになりますよ。

Your gredi thrust tresour to multeplie
Causith an etik off nounsuffisaunce,
In you engendryng a fals ydropisie, 696
With a sharp hunger off worldli habundaunce,
Makyng off you a maner resemblaunce
With Tantalus, —— whan ye deppest synke,
Than is your nature most thrustleuh for to drynke.

財産を増やそうとするあなた方の貪欲な渴望は
物足りなさから消耗熱を発生させ,
この世の財産への激しい執着から
あなた方の身体に疑似水腫を生じさせます。
あなた方をタンタロスになぞらえると, ——
深くのめり込めばのめり込むほど,
あなた方は財産を手に入れようともっと渴望するのです。

Who clymbeth hiest on Fortunys wheel
And sodenli to richesse doth ascende,
An onwar turn, afforn seyn neueradeel,
Whan he leest wenyth makith hym descende. 704
Fro such chaungis, who may hymselff defende,
But thei that be with Pouert nat dismaied,
And can with litil holde hemselff appaied."

運命の車輪の頂点に昇り詰め,
成金になる者は,
思いもよらぬ時に
車輪の回転によって転落してしまいます。
このような変化から誰が身を守れるだろうか。
満足貧乏を恐れず,
僅かな物資に満足できる人のほかは誰もできません。

(1995年9月22日受理)